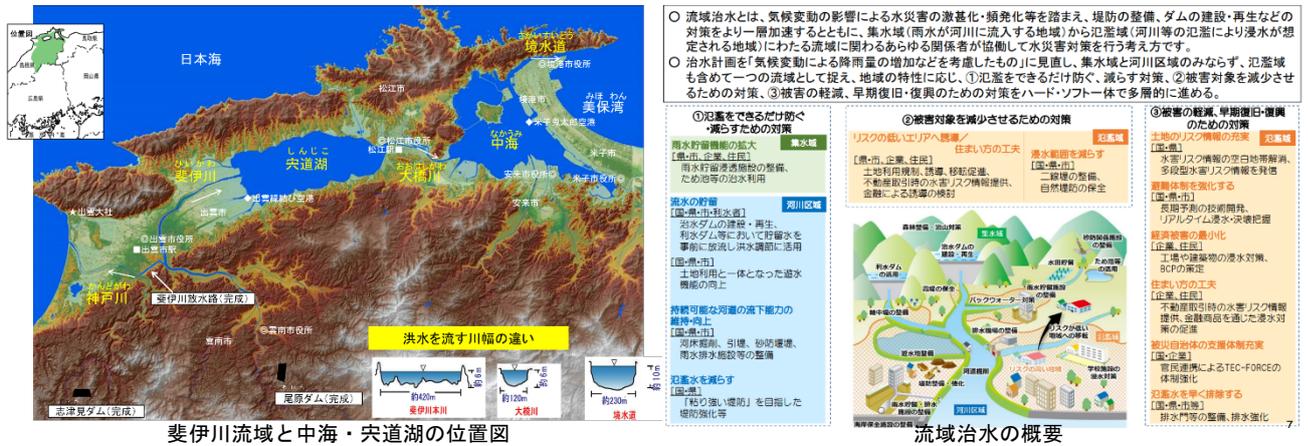


斐伊川流域の現状と将来像

兒子 真也 (国土交通省 出雲河川事務所長)

斐伊川水系斐伊川は宍道湖に流れ込んだ後、狭窄部である大橋川として松江市街地を貫流した後中海となり、その後境水道を経て日本海に注ぎ、斐伊川水系として特徴的な地形的を有する。

複雑な地形特性ゆえに治水・洪水・災害に対し、過去から様々な対策が取られてきた。また、中海・宍道湖という広大な水面は、自然環境豊かで、動植物、人間生活にとっても貴重な空間である。



今後想定される気候変動下においては、現在の治水対策を引き続き治水対策を継続するとともに、増大する降雨に対応するため、流域一体で防災を進める「流域治水」を推進していく必要がある。

一方、国交省が進める河川環境事業についても、水質等の水環境から流域全体を見据えた自然再生事業へと移り変わりつつある。斐伊川流域で今後も進めていく、自然再生事業の具体例と、今後斐伊川流域が目指すべき将来像について紹介する。



斐伊川総合水系環境整備事業(自然再生)の概要